# オリーブの会通信

２０２３年 11 月 20 日第 36 号（通巻 42 号）
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通１０１－４５３
tel/fax;072-737-9454
mail; oribunokai@gmail.com
facebook;oribunokai

مجموعة الزيتون

ガザでの戦争が始まって 45 日になり、イスラエルの無差別攻撃で亡くなったパレスチナ人は１万４千人をこえた。そのうちの５千人以上は、子どもであり、一か月半で５０００人以上の子供が殺されるのは、歴史にのこるものである。イスラエルは、ハマスだけでなく、パレスチナ人を一掃するまで戦争を継続するつもりである。

**イスラエルの嘘がバレはじめた**

時間がたつにつれて、イスラエルの嘘がバレ始めている。イスラエルはハマスの攻撃で、ホロコースト以来の１４００人が殺害されたと騒ぎ、さらに、ハマスは子供の首を切り、女性を強姦していると、いかにハマスが残忍かを印象付けようとした。

しかし、殺害されたイスラエル人の数が 1400 人から 1200 人に減った。ふつうは戦争が続いているので犠牲者が増えるはずだが、２００人の被害者が減ってしまった。２００人は数え間違いではない、イスラエルいわく２００人はハマスの戦闘員であることが分かったと説明した。すなわち、イスラエル人か、ハマスの戦闘員かがわからないくらいに遺体が燃やされたていたことを意味している。ハマスが自分自身で火をつけるわけはなく、イスラエル軍が、イスラエル人、ハマスの戦闘員の区別なく、焼き殺したことを意味している。攻撃を受けた入植地でハマスにつかまっていた女性は、ハマスは人道的に接していたと証言し、イスラエル軍がそこに攻撃を加えてきた証言している。

さらに、野外コンサートへのハマスの攻撃で 300 人以上が死んだといわれていた。しかし、イスラエル警察が、イスラエル軍のヘリコプターが無差別に攻撃したことを証言している。また、ハマスはもともとコンサートを知らなくて、偶然見つけたということであった。この死者の多さは、小火器しか持たないハマスの攻撃では考えられなかった。

すなわち、ハマスによるイスラエル人の虐殺ではなく、イスラエル軍によるイスラエル人の虐殺が行われていたことを意味している。

そして、ガザへの攻撃の最大の目標であるアル・シファ病院の地下のハマスの司令部を破壊するということで、病院への無差別な攻撃をしたが、イスラエル軍が、証拠として見せたのは、旧式の AK ４７などで、とても、司令部や武器庫といえるのものではなかった。その数日後に病院の敷地内でトンネルを見つけたビデオが流されたが、これも司令部というものではなく。その後労働党政権時代の首相であったバラクが CNN にイスラエル軍が占領している時に、病院の下に掘ったもので、ハマスのもので

はなく、イスラエル軍のものであることを暴露した。これでシファ病院の地下にハマスの司令部があるというイスラエルの嘘は完全に破産した。

結局は、イスラエルはパレスチナ人への無差別攻撃を正当化するために、ハマスが民間人を人間の盾にしているということを証明しようとしているに過ぎない。

**病院、学校、難民キャプでの無差別攻撃**

無差別攻撃はハマスの一掃ではなく、パレスチナ人の一掃という民族浄化の徹底しかない。その証拠に、ハマスを一掃してどうするかという目標はなくて、占領下にガザを置くとしている。ハマスと一般のパレスチナ人の区別がつくわけでなく、イスラエルから見ればガザのパレスチナ人はみなテロリストということであり、子供もまで虐殺する。イスラエルの国防相は、この戦争は人間と動物人間の闘いであるといい、イスラエルのラビの一人は、人間には人道的措置は必要だが、動物にはいらないといった。ネタニヤフは、この戦争を文明人と野蛮人の戦争とまでいった。かれらにとっては、パレスチナ人は人間ではないのである。

**ネタニヤフの演説**

イスラエルの首相を務めているベンヤミン・ネタニヤフはパレスチナ人虐殺を正当化するため、「われわれの聖書（キリスト教における「旧約聖書」と重なる）」を持ち出した。

聖書の中でユダヤ人の敵だとされている「アマレク人」を持ち出し、「アマレク人があなたたちにしたことを思い出しなさい」（申命記25章17節から19節）という部分を引用、この「アマレク人」をイスラエルが敵視している勢力に重ねて見せた。アマレク人は歴史の上で存在が確認されていない民族だが、ネタニヤフの頭には存在しているようだ。

「アマレク人」を家畜ともども殺した後、「イスラエルの民」は「天の下からアマレクの記憶を消し去る」ことを神に命じられたという。ネタニヤフはパレスチナ人が生活していた歴史を破壊で消し去ると言いたいのだろう。

こうした主張をするということは「約束の地」を想定しているのだろう。ナイル川とユーフラテス川に挟まれた地域、つまりパレスチナのほかレバノン、ヨルダン、クウェート、シリア、さらにイラクの大半、エジプトやサウジアラビアの一部を自分たちの領土にしようとしている。「大イスラエル構想」だ。

そしてサムエル記上15章3節の話を彼は持ち出す。そこには「アマレクを討ち、アマレクに属するものは一切滅ぼし尽くせ。男も女も、子供も乳飲み子も牛も羊も、らくだもろばも打ち殺せ。容赦してはならない。」ということが書かれている。これこそがガザでイスラエルによって行われていることだというのだ。

ネタニヤフによると「われわれは光の民であり、彼らは闇の民だ」としたうえで、イザヤの預言を理解しなければならないと主張する。「われわれ」とはイスラエル人、「彼ら」とはパレスチナ人、イスラム教徒、あるいはイスラエル以外の人びとを指しているのだろう。

イスラエルは、1948年の「建国」を前後して、シオニストはパレスチナ人に恐怖を与えて追い出してきた。テロによってパレスチナ人を支配しようとしていたが、テロでは、パレスチナ人の怒りを抑えることはできない。

イスラエルの戦術の基本は、理由もわからず、攻撃されたり、逮捕されることで恐怖を与えることにある。しかし、 パレスチナ人はこの恐怖に屈することはない。これまでもそうであったように、ガザからパレスチナ人を一掃しようと、その怒りはさらなる闘いがつくられていくことが歴史が示している。

**シオニストはイスラエル人の命も顧みない。**

人質の家族が停戦と人質の解放をもとめているのに、無視して、ガザへの無差別攻撃を行っている。また、家族が反対する中で、パレスチナ人に死刑を導入する法案を通そうとしている。ネタニヤフは11月22日に停戦と捕虜の交換を認めたが、彼の政権の極右は、この停戦に反対した。かれらにとっては、イスラエル人の人質の命も犠牲にしてもいいと考えており、これがイスラエルの世論に受け入れられるわけはない。また、国際的にも、米国をはじめとしてイスラエルを支持する勢力が停戦を求めており、ネタニヤフも認めざるを得なかった。

国際的な世論は、即時の停戦と大虐殺をやめという声が拡大している。イスラエルを無条件で支持する米国、ドイツ、英国でもその声は広がり、彼らも立場を変えつつある。

アラブ・イスラム諸国は、停戦を実現するために、外交を展開している。これがネタニヤフに停戦をしまった。

欧米は、破綻している2国解決方式で、なんとかしようとしているが、イスラエルが2国解決方式を否定し、自治権を持つパレスチナ国家の存在を認めず、イスラエルのもとに従属した、現在の自治政府のような存在しかみとめていない。イスラエルの現状では、解決することはない。イスラエルが、シオニズムを国の基本している間は成立しない。

欧米が、自らのユダヤ人問題をパレスチナに押し付けたことで、パレスチナ問題がうまれた。西岸、ガザ、そして周辺国の難民キャンプで暮らす人々は、その時に追い出された。それまでは、パレスチナでは、ユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒が共存して暮らしていた。そこには、欧米のようなユダヤ人問題は、存在しなかった。現在のイスラエルでは、パレスチナ人が三級市民として扱われ、アラブ諸国からのユダヤ人は二流国民として扱われ、欧米からのユダヤ人たちが支配している。シオニズムからの解放が必要である。

**即時の停戦を**

まずは、イスラエルによるジェノサイドを止めなければならない。国際世論の力を強めなければならない。
これ以上の流血を止めなければならない。

# イスラエルが 10 月 7 日に自国民を殺害した証拠

エイサ・ウィンスタンリー
エレクトロニック・インティファーダ 2023 年 11 月 23 日

イスラエルの退役軍人が、自軍がイスラエル人を殺害した可能性を認めた。（レガシー・カンバセーションズ/CN）

イスラエル軍の退役少佐が、政府がハマスが 10 月 7 日に殺害したと主張する 1200 人のイスラエル人の一部を、イスラエルが殺害した可能性があることを認めた。

『エレクトロニック・インティファーダ』紙が発見したこの告白は、イスラエルがパレスチナの攻撃で死亡した民間人の大部分ではないにせよ、その多くを殺害したことを確認する、これまでで最高レベルのものである。

土曜日には、イスラエルの公式情報筋が、イスラエルの砲撃が少なくとも何人かのイスラエル人に命中したと初めて結論づけたことが明らかになった。

この証拠の増加は、野蛮なパレスチナのテロリストが民間人を虐殺するためにイスラエルを侵略したというイスラエルの公式見解を根底から覆すものである。ハマス側は、自分たちの標的は軍事的なものであり、意図的に民間人を殺したわけではないと主張している。

イスラエル軍将校の告白は、レガシー・カンバセーションズという、南アフリカのアパルトヘイト政権で軍や警察を経験したベテランたちが運営する無名の YouTube チャンネルに投稿した、10 月 7 日についての一連のビデオの中でなされた。

彼らの主なゲストは、18 歳でイスラエルに定住し、29 年間軍隊で過ごした南アフリカ生まれの男性である。彼は 2006 年のレバノン侵攻と 2014 年のガザ侵攻に参加した。

この退役軍人は〝グレーム少佐〟と名乗り、〝グレーム・イップ〟や〝グレームⅠ〟という偽名を使っている。10 月 7 日のわずか 1 週間後に投稿されたビデオで、グレーム少佐は、パレスチナ人の拘束下にあるイスラエル人拘束者が、〝イスラエル空軍がガザに帰還する車両を攻撃した際、イスラエル軍の空爆によって殺害された可能性がある〟と述べた。

イスラエルがガザ北部への地上侵攻を開始するほぼ 2 週間前に、グレーム少佐は、空爆の後、〝特殊部隊が行って回収した死体があった〟と説明した。

この証言が正確であれば、イスラエルは 10 月 7 日に意図的か否かにかかわらず、自国の民間人を殺害した証拠を隠蔽しようとしていることになる。

少なくともこの証言は、10 月 7 日に実際に何が起こったのかについて、国際的な調査が緊急に必要であることを強調している。

イスラエル人の匿名グループは、独立した調査を求める公開書簡を書いている。しかし、イスラエルはこれを許しそうになく、証拠を隠蔽し、身元が確認され

る前にいくつかの遺体を埋葬しているようだ。
イスラエルはまた、パレスチナ人によるレイプや性的暴行の主張を裏付ける遺体の法医学的証拠を集める努力もしなかった。

少なくとも「1,400人」のイスラエル人が殺害されたと3週間以上主張してきたイスラエルは、11月10日、公式に死者数を「約1,200人」に修正した。

イスラエルのマーク・レーゲフ報道官は先週、死者のうち200人が「ひどく焼けただれ、我々のものだと思ったが、結局ハマスのテロリストだったらしい」とうっかり認めてしまった。

このことは、イスラエルによるガザ辺境の入植地への砲撃があまりに激しく無差別だったため、パレスチナ人戦闘員とともに多くのイスラエル人拘束者を焼き殺したことを示している。

グレーム少佐の指摘は、イスラエルが以前に投稿した、黒焦げの死体を含む爆撃された車の生々しいビデオによって確認されたようだ。

イスラエル外務省は、このビデオでハマスが〝ISISのテロリスト〟と〝同じ戦術〟を使っていることが証明されたと主張した。2015年にISISが檻に入れられたヨルダン人パイロットを焼き殺したのと同じように、ハマスも囚人を生きたまま焼いたというのだ。

しかし、ビデオの中の死体は、大規模な爆弾の爆発によって瞬時に焼却されたように見える。焼却された死体のうち2体（イスラエル人抑留者と思われる）は、衝撃の瞬間、後部座席に座っていた。遺体は凍りついたように見えるが、瞬間的な痛みである。車も空から爆撃された形跡があり、屋根は完全にねじれ、破壊されている。

10月7日の朝、イスラエル軍によって同様の空爆の動画がいくつかネット上に投稿された。その投稿は、これらの車両が〝ガザ地区のハマス・テロ組織の標的〟だと主張している。

これらの車両に、ガザに帰還したパレスチナ人戦闘員の拘束下にあるイスラエル人拘束者が乗っていたとすれば、その全員がイスラエルによって殺害された可能性が高い。

10月7日以来、10月7日の襲撃でイスラエル軍に殺害されたイスラエル人の数は未定だが、かなりの数に上ることを示す証拠が、ヘブライ語で続々と報告されている。

これらの証言は、主に『The Electronic Intifada』、『Mondoweiss』、『The Grayzone』、『The Cradle』などの独立系メディアによって英語で報道されてきた。
そのような証拠の重要な一部が、11月11日にThe Electronic Intifadaによって英訳された。

イスラエルのYnetは、イスラエルのヘリコプター部隊の司令官の話を引用し、10月7日、空軍はヘルファイアミサイルと機関銃を使って、ガザ辺境一帯を射撃するために、エルビット無人機と同様に20機以上の攻撃ヘリコプターを派遣したと述べた。

Ynetの伝える空軍の予備評価によれば、「テロリストと（イスラエルの）兵士や民間人を区別するのは非常に困難」だったが、とにかくガザとの「フェンスのエリアで目にしたものすべてを撃つように」とパイロットに指示したという。

同紙はイスラエル空軍の調査を引用して、「数千人のテロリストに対する発砲の頻度は当初は膨大で、ある時点になって初めてパイロットは攻撃の速度を落とし、慎重に標的を選び始めた」と報じた。

この明らかに無差別な攻撃を正当化する理由は、「フェンスの穴からイスラエル領内に流れ込むテロリストと殺人集団の氾濫を食い止めるため」だった。

しかし、パレスチナの戦闘員がイスラエル人被拘束者を連れてガザに帰還していたのと、他のパレスチナ人がその日もガザから到着していたのがまったく同時だったことを考えると、フェンスのエリア内の〝すべて〟を撃つことは、必然的にイスラエル人被拘束者を含むことになる。

空軍によれば、彼のパイロットは最初の4時間で〝約300の標的を攻撃したが、そのほとんどはイスラエル領内だった〟。

Supernova rave（バーニングマン・スタイルの音楽とアート・インストレーションが楽しめる典型的な砂漠のフェスティバル）はまた、国境フェンスのすぐ近く、つまり近くのイスラエル人入植地キブツ・ベエリとの間だった。

イスラエルは当初、そこで260人のイスラエル人が死亡したと主張した。この数字は後に364人に増えた。

土曜日、警察の情報筋は、イスラエルが10月7日のSupernova raveで自国民を殺害したことを初めて確認した。

イスラエルの新聞『ハアレツ』は、警察の捜査の結果、イスラエルの「現場に到着してテロリストに発砲した戦闘ヘリコプターが、明らかにフェスティバルの参加者にも命中した」と結論づけたと報じた。

匿名の警察関係者は翌日、ハアレツを批判し、この声明を撤回したようだが、イスラエルがイスラエル人を殺害したことは否定しなかった。

上記のYnetの記事と同じ日に公開されたイスラエル

の映像は、空軍が ″10 月 7 日の朝、イスラエルに侵入したパレスチナ人テロリスト ″に対する攻撃だと主張するものだった。

その映像は、焼却された死体の生々しい映像に映し出されたものと同じような、複数の民間人の車に対する乱暴な無差別空爆と、徒歩で逃げ惑う人々に対する機銃掃射を示しているようだ。

映像の中の耕された空き地は、 Supernova rave のイベントから逃げ惑うイスラエルのレイブ参加者のネットに投稿された他の映像と酷似している。

イスラエル軍の銃乱射映像には、十字線に照らされた車が映っている。

イスラエルのガザに対する大量虐殺キャンペーンは、少なくとも 14,000 人のパレスチナ人の命を奪い、ガザに拘留されているイスラエル人もまた、イスラエルの無差別爆撃の犠牲になっている。

ハマスの武装組織によれば、これまでにイスラエルのガザ空爆によって 60 人のイスラエル人が死亡したという。

南アフリカの YouTube シリーズで、グレーム少佐が軍事的根拠を説明している。

「そのような決断が伴うあらゆる困難と苦痛の中で、イスラエル軍はまるで人質がいないかのように続けている」と彼は言う。イスラエルは「ハマスが人間の盾をうまく使うのを許すわけにはいかない。だからそれだけだ」。

彼はまた、イスラエルの空爆に対する「ある種の統制と制限」が取り払われたとも述べた。

グレーム少佐は、ハンニバル指令として知られるイスラエル軍の長年の秘密主義的な教義を参照したのかもしれない。

イスラエルは、アラブの抵抗勢力がイスラエル兵を捕らえるのを阻止するために、この教義を確立した。2011 年、イスラエルは捕虜となったイスラエル兵 1 人と引き換えに 1027 人のパレスチナ人捕虜を釈放した。

ハンニバル指令が 2014 年のガザ侵攻時にイスラエル兵の殺害に使用された後、世界的な監視が強まった。2016 年、イスラエル軍は「今日理解されているような命令のあり方」を取りやめると述べた。この動きは必ずしも方針の全面的な変更ではなく、明確化だった」と『タイムズ・オブ・イスラエル』紙は報じた。

(＊ハンニバル指令（ヘブライ語： ）（または「手順」または「議定書」）は、敵軍によるイスラエル兵士の捕虜を防ぐためにイスラエル国防軍（IDF）が使用する物議を醸している手順です。 このシステムは、レバノンでのイスラエル国防軍兵士の多数の誘拐とその後の物議を醸した捕虜交換を受けて、1986 年に導入された。この指令の全文は決して公表されず、2003 年までイスラエル軍による検閲によりマスコミはこの件について議論することさえできなかった。この指令は何度か変更されました。かつては、「我が国の軍隊を攻撃し損害を与えるという犠牲を払ってでも、拉致は必ず阻止されなければならない」という定説がありました。ハンニバルの指令には時々 2 つの異なるバージョンがあったようです。 1 つは IDF の最高レベルのみがアクセスできる極秘バージョンであり、もう 1 つは師団司令官および下位レベル向けの「口頭法」バージョンです。後者のバージョンでは、「IDF 兵士は『誘拐されるくらいなら死んだほうがましだ』」のように、「ぜひ」という言葉は文字通りに受け取られることが多かった。 2011 年、IDF 参謀長のベニー・ガンツは、この指令は IDF 兵士の殺害を許可していないと述べた。ハンニバル指令はイスラエル兵一人の捕虜を妨げなかった。報告されている 7 件のハンニバル事件に関与した 11 人のイスラエル人のうち、生き残ったのは兵士 1 人（ギラッド・シャリット）だけだった。彼の場合、ハンニバルの宣言は遅すぎた。しかし、イスラエル軍がイスラエル人の死亡に直接関与したと公式に確認されたのは 1 件だけである。）

しかし、この教義は現在復活しているようだ。

Haaretz のポッドキャストにヘブライ語で語った空軍予備役のノフ・エレズ大佐は、フェンス付近で起きたことは「集団ハンニバル」であり、同様のシナリオを 20 年間訓練してきたと語った。

イスラエルの地上部隊はまた、多くのイスラエル市民を殺害した。

最初に明らかになった証拠は、パレスチナ人戦闘員が 10 月 7 日に襲撃した、ガザとの境界線沿いにある数十のイスラエル人入植地のひとつ、キブツ・ベエリの生存者、ヤスミン・ポラトの証言だった。

ポラトの証言はイスラエルのラジオでヘブライ語で語られたが、10 月 16 日に『エレクトロニック・インティファーダ』が英語に翻訳したことで、国際的に広まった。Supernova レイブの参加者であったポラトは、襲撃が始まってすぐに近くの Be'eri に逃げた。

「彼女と他の約 12 人のイスラエル人は、パレスチナの戦闘員によって捕らえられた。彼らは私たちをとても人道的に扱いました」。

ポラトは、彼らの目的は「私たちをガザに誘拐することだった。私たちを殺すためではありません」。戦闘員たちは 1 日後に解放するつもりだったようだ。

拘束された人々は、人質交渉官の到着を待つため、外に座っていることが許された。パレスチナ人は交渉による解放を望んでいたようだ。

しかし、YAMAM として知られる特殊部隊が到着すると、事態は急速に悪化した。

「交渉人」は不意打ちの銃撃でその存在を知らせた。

「突然、YAMAM から銃弾が飛んできた。私たちは皆、身を隠そうと走り出しました」とポラトはイスラエルのテレビ局に語った。

クファル・アッザで撮影されたビデオには、イスラエルの砲撃で平らになったらしい建物が映っている。ポラトは、無差別砲撃は「非常に激しい銃撃戦であったため、人質を含めて全員を殺害した」と主張した。彼女は地面に死体が落ちているのを見た。

続く銃撃戦は30分にも及び、最後には2発の戦車砲弾が人質の家に撃ち込まれた。ポラット自身が生き延びたのは、最終的に投降したヘブライ語を話すパレスチナ人戦闘員とつながりができたからだ。

10月7日の攻勢に対するイスラエルの混乱した対応の中で、いくつかの意図しない「フレンドリー・ファイア」事件が発生したようだ。

しかし、イスラエル軍によるイスラエル民間人の虐殺もまた、計算された政策の結果であった可能性が指摘されている ― グレーム少佐の言葉を借りれば、″人質がいないかのように続ける″ということである。

サルマン・ハバカ中佐はその朝、2台の戦車でキブツ・ベエリに急行した。

「バラク・ヒラム准将に会うためにベエリに到着し、彼が最初に私に頼んだことは、民家に砲弾を撃ち込むことだった。「私たちは人質を解放するために家々を回った。こうして夕方まで戦闘が続いた。キブツでも、通りでも」。

キブツ・ベエリでの戦闘は2日間続き、10月9日（月）の夕方に終わった。

イスラエルがオンラインに投稿した写真とテレグラフ紙が投稿したビデオには、イスラエルによって砲撃されたと思われるキブツ・ベエリの複数の建物が写っている。

この間、Haaretz紙（これもヘブライ語版のみ掲載）によれば、ベエリのイスラエル軍司令官は「人質とともにテロリストを排除するために、居住者全員が中にいる家屋を砲撃するなど、困難な決断を下した」という。
このことは、イスラエル軍将校が、イスラエル人拘束者をガザのパレスチナ人の手に渡すよりは、囚人交渉のテコとして使えるように「抹殺」するという計算された決断があったことを示唆している。

『ガーディアン』紙によれば、キブツ・ベエリの住民108人が襲撃中に死亡した。「10月10日、軍主導のメディアツアーの後、同紙はキブツの共同食堂に「死体が運び込まれ、回収を待つために並べられた」と説明した。

しかし、10月15日のYouTubeビデオに登場したグレーム少佐によれば、イスラエル人拘束者の「多数」は当初、ベエリの食堂でハマスによって生け捕りにされたという。

「食堂は特殊部隊によって襲撃された。「私の知るところでは、人質の大半はこの救出の試みで殺された。救出されたのは4人..... 殺されたのは14人だったと思います」。

キブツ・ベエリにおけるイスラエルの残忍で無差別な軍事戦術は、他のガザ辺境の入植地でも繰り返された。

『Electronic Intifada』は、10月7日から27日の間にX（旧ツイッター）に投稿された、イスラエルの3つの公式アカウントによるすべての動画と写真を調査した：

イスラエル、@IDF、@IsraelMFAである。また、キブツ・ベエリや他のガザ辺境入植地への攻撃に関する主要メディアの報道についても、広範囲に調査を行った。
私たちは、イスラエル軍が自国の入植地を攻撃したというヤスミン・ポラトやその他の人々の証言を裏付ける、豊富な視覚的証拠を発見した。

イスラエルが自国の民間人を殺害したというこれらの重要な兆候は、通常、ハマスのせいにするイスラエルの公式残虐プロパガンダの層の下に埋もれている。

イスラエル軍は辺境の入植地であるクファル・アッザ（ヘブライ語で「ガザ村」の意）を、キブツ・ベエリと同様の残忍なやり方で扱った。

『ワシントン・ポスト』紙が10月10日に投稿したビデオ・レポートでは、この入植地で破壊された2棟の建物が短時間ながら公開された。

イスラエルは、ハマスの戦闘員が入植地の建物を焼き払ったと言っている。映像に映っている他の建物は焼き払われたように見えるが、少なくとも2棟の破壊された建物は、全体的あるいは部分的に瓦礫と化している。
そのうちのひとつはほぼ完全に平らになっており、現在ガザを空爆しているイスラエルの空爆と驚くほどよく似ている。

破壊の程度は、火災や、その日パレスチナ人戦闘員が武装していた軽火器（ライフル、手榴弾、ロケット弾、数例ではトラック搭載の機関銃など）では十分に説明できない。

これとは対照的に、イスラエルが使用したことが判明している兵器の種類、すなわち戦車砲弾、20機以上のアパッチ・ヘリコプターから発射されたヘルファイア・ミサイルで説明することができる。

これらのヘリコプターはまた、イスラエルのYnetが言うように「手榴弾のような」砲弾を発射する30ミリ機関砲で武装している。戦車を破壊するために設計され、1分間に約600発を発射できるこの破壊的な銃は、上のビデオで実演されている。

10月7日には、「28機の戦闘機ヘリコプターが、再武装のため、1日かけて腹の弾薬をすべて撃ち尽くした」とYnetは報じている。

そもそもなぜハマスがキブツ・ベエリをはじめとする21のイスラエル入植地、基地、軍事前哨地を攻撃したのか？

それを理解するためには、直近の歴史と、パレスチナ

におけるシオニストによる植民地化計画によって行われた過去 141 年間の追放と虐殺の両方を考慮しなければならない。

イスラエルの辺境入植地はすべてパレスチナの土地に建てられているだけでなく、イスラエルが繰り返し行っているガザへの軍事攻撃に参戦する部隊を駐留させる基地としてもしばしば使用されている。

グレアム少佐は著書『私のゴラニ』の中で、1995 年、彼と彼の部隊が「キブツ・クファル・アッザの宿舎」に駐屯していたことを説明している。

2006 年 7 月のイスラエルの対レバノン戦争では、彼は大隊を北部のキブツ・サッサに連れて行くよう命じられた。551 人の子どもを含む 2,251 人が死亡した 2014 年のイスラエルによるガザ攻撃では、彼の旅団の前方司令部は「キスフィムとアイン・ハシュローシャのキブツからそう遠くない場所」を拠点とした。

そもそも、ガザ辺境の入植地が設立された理由は、ガザ周辺の膨大な民間人を封じ込め、抑圧するためであった。社会主義的とされるキブツを含むこれらの入植地は、常にイスラエルの軍事戦略の不可欠な一部であった。
Haaretz の特派員でキブツ・ナハル・オズの住民であるアミール・ティボンが最近説明したように、「われわれは国境を守り、（政府は）われわれを守る」。

キブツは事実上、イスラエルの人間の盾なのだ。1951 年に設立されたキブツのひとつは、文字通りヘブライ語で〝盾〟を意味する〝マゲン〟と名付けられている。
マゲンと他の 3 つのキブツは、破壊されたパレスチナ人村マイン・アブ・シッタの土地に建てられた。著名なパレスチナ人歴史家サルマン・アブ・シッタは 1948 年、10 歳のときにシオニスト軍によって村を追われた。

1948 年、キブツ・ベエリに集結したパルマハ部隊。ナクバの間、パルマハと他のシオニスト民兵は約 80 万人のパレスチナ人を追放した。（ウィキペディア）

イスラエルがパレスチナ人に拘束されるよりも、イスラエル人が殺されることを望んでいるのはなぜなのか。
それはトップから始まる。

ベザレル・スモトリッチ・イスラエル財務相は 10 月 7 日直後の閣議で、「ハマスに残忍な打撃を与え、捕虜の問題を重要視しない」よう求めた。
ベンヤミン・ネタニヤフ首相はその直後、パレスチナに拘束されているイスラエル人の家族と面会した。彼らは彼に交渉を迫った。しかし、4 人の見知らぬ人物が突然会合に加わった。そのうちの一人は、捕虜となっている娘の命と引き換えに支払う用意があると言ったと伝えられている。

後に、謎の訪問者はネタニヤフ首相の事務所が仕組んだ西岸入植者であることが判明した。イスラエル人ジャーナリストのノガ・タルノポルスキーは、その人物を極右組織のリーダーと名指しした。

CNN のクラリッサ･ウォードは､30 年前にベエリにやってきたアイルランド生まれの入植者、トム・ハンドに涙ながらにインタビューした。取り乱したハンドは、イスラエル当局から 8 歳の娘エミリーが遺体で発見されたと聞かされた後の喜びを語った。

「ガザで人々がどんな目に遭っているか知っているのなら、それは死よりも辛いことなんだ」。

イスラエル当局はその後、評価を変えた。ありがたいことに、エミリーは生きていると思われる。

キブツ・ベエリの別の住民は、同じように厳しい決断を下した。元地方議会議長の息子であるオル・イェリンは、イスラエルの i24 ニュースチャンネルに、ハマスに生け捕りにされるくらいなら、妻を包丁で刺し殺したほうがましだと夫婦で合意したと語った。

これらすべては、アメリカ政府が全面的にバックアップしている。

ジョー・バイデン大統領はネタニヤフ首相に対し、イスラエル人捕虜の生還は（たとえアメリカ市民であっても）きわめて任意であることを示唆したと伝えられている。

「私が彼に示したのは、もしそれが可能なら、彼らを安全に脱出させること、それが彼がすべきことだ、ということだ。それは彼らが決めることだ」とバイデンは言った。

キブツ・ベエリや他の辺境入植地での民間人死亡の本当の責任は誰にあるのかは､抽象的な歴史問題ではない。イスラエルのガザに対する大量虐殺戦争は、これまでに約 14,000 人のパレスチナ人を地上から消し去った。その 40%は子どもたちである。

アメリカとヨーロッパのほとんどの政府は、この大量虐殺を全面的に支援している。

欧州連合（EU）の外交政策責任者ジョゼップ・ボレルは先週、イスラエル軍のプロパガンダ・ツアーのためにキブツ・ベエリの遺跡を訪れた。このスペイン人社会主義者は、数十年前に実際にキブツでボランティアをしていた。

「女性や子ども、高齢者を殺したり、家から拉致したりすることを正当化するものは何もない」と彼は言った。ヨーロッパの〝庭〟とそれ以外の世界の〝ジャングル〟に地球を分けたことで悪名高いこの男は、自称〝ジャングルの別荘〟であるイスラエルに支援を提供してい

た。

彼は、パレスチナの女性、子供、高齢者、ましてや男性たちの死などまったく顧みなかった。また、現在イスラエルの刑務所に人質として拘束されている7000人近いパレスチナ人についても言及しなかった。

パレスチナ人の抑圧に対する武力反乱は、解放のためのパレスチナ戦争における綿密に計画された軍事攻撃ではなく、冒涜的で非合理的な暴力として描かれた。

彼らは〝庭〟と〝別荘〟の両方のルールを破った。あるいは、イェリンの父ハイムも、レジスタンスに対して同じような憤りを感じていた：「彼らはまるで自分たちの所有物であるかのようにベエリを歩き回っていた。ガザ地区の住民の80パーセントは、イスラエルが1948年に行ったパレスチナ人に対するナクバからの難民の子孫である。

最近、イスラエルのテレビ番組に出演したベエリの別の住民は、シオニズムの大量虐殺の論理を端的に語っていた。

「最後のパレスチナ人が全滅したときだけ、私はベエリに戻る。略奪に来たのが子どもだろうが、老人だろうが、松葉杖をついている人だろうが、私は気にしない。この瞬間、私は誰にも慈悲を与えない」。

アリ・アブニマ、マイケル・F・ブラウン、タマラ・ナッサー、ジョン・エルマー、モーリーン・マーフィー、リファート・

日付：2023年11月7日

2023年11月7日、パレスチナの人権団体は、エルサレムを含む被占領ヨルダン川西岸地区、特にエリアCに住むパレスチナ人に対するイスラエル入植者の暴力が憂慮すべきほどエスカレートしていることに対処するため、第三国に対し緊急書簡を送った。この入植者による攻撃の激化は、イスラエルによるガザへの継続的な軍事侵攻や、歴史的パレスチナのあらゆる地域におけるパレスチナ人の人権状況の悪化と並行して起きている。この書簡は、第三国に対し、止むことのない入植者による暴力の継続とエスカレートを防ぐため、直ちに行動するよう要請した。イスラエル入植者は、そのほとんどがイスラエル占領軍の保護下にあり、パレスチナ人を負傷させ殺害し、彼らの生計手段を損ない、家屋の取り壊しや生命への脅威によって強制的に移住させる。

この書簡は、2023年10月7日以降、イスラエル人入植者によるパレスチナ人に対する攻撃が、2023年の最初の8ヵ月間と比較して133%という驚異的な増加を見せていることに言及し、攻撃の急増は、パレスチナ人に対するイスラエル人の動員の激化、数十年にわたる入植者による暴力の不処罰、イスラエルの銃規制の緩和を含むイスラエル政府高官による継続的な差別的発言や行動によって引き起こされていることを強調した。

2023年10月7日から11月6日の間に、イスラエルの入植者は、少なくとも1人の子どもを含む少なくとも9人のパレスチナ人を殺害し、62人のパレスチナ人を負傷させた。一方、イスラエルの占領軍は、ヨルダン川西岸地区で、少なくとも44人の子どもを含む少なくとも147人のパレスチナ人を殺害し、約2300人を負傷させた。これらの入植者は武装し、組織化されており、しばしばイスラエル占領軍の兵士や軍服を着た個人を伴っている。国連人道問題調整事務所（OCHA）の報告によれば、2023年10月7日以降、パレスチナ人が負った負傷の約27%は実弾によるものである。

イスラエル入植者と占領軍は、パレスチナ人の農地や、井戸や道路といった重要な資源を含む重要なインフラを頻繁に標的にしている。このため、多くのパレスチナ人家族の生計にとって重要な、現在進行中のオリーブの収穫期に大きな影響を与えている。入植者たちは、WhatsAppやTelegramを通じてパレスチナ人の収穫者の

写真や場所を共有し、暴力や扇動を促している。さらに、イスラエルのベザレル・スモトリッチ財務相は、イスラエルの違法入植地や植民地入植地が建設された場所の近くでパレスチナ人が土地を収穫するのを防ぐため、「無菌地帯」を作るよう呼びかけている。この入植者の攻撃の増加は、オリーブを収穫していたパレスチナ人、ビラル・サレーを殺害する結果となり、多くのパレスチナ人が潜在的な攻撃を避けるために家と生計を離れることを余儀なくされた。

OCHA によると 2022 年以降、2,000 人近くのパレスチナ人が入植者の攻撃によって家を追われ、その半数近くが先月に発生している。さらに、2023 年 10 月 7 日から 11 月 3 日の間に、イスラエル占領当局は 34 軒のパレスチナ人住宅を取り壊し、少なくとも 165 人のパレスチナ人を強制的に避難させた。その理由は、めったに許可されない建築許可がないこと、懲罰的措置、軍事作戦中などである。

現在進行中のガザへの軍事侵攻が始まる前から、イスラエル政府はヨルダン川西岸を事実上併合すると公然と宣言し、入植地を急速に拡大してきた。2023 年 1 月から 7 月にかけて、イスラエルは入植者の住宅を 12,855 戸進めたが、これは以前の平均と比べて大幅に増加した。政府はまた、これらの入植地の建設を促進するため、スモトリッチに大々的な権限を与え、事実上、入植地建設プロセス全体を管理することを認めた。2023 年 3 月、イスラエル政府は 2023 年から 2024 年までの 2 年間の予算を可決し、植民地入植事業に多額の資金を割り当てた。

イスラエルが歴史的パレスチナ全域で一貫してパレスチナ人の生存権を無視し、入植者に対する制度化された不処罰と相まっていることを考慮し、書簡は、ガザ地区での停戦を実施するために直ちに動員し、そこで保護されている住民の生存に必要な燃料、水、食料、電力、医療・人道援助の供給を再開するようイスラエルを後押しするよう、私たちの呼びかけを繰り返し、各国に対し、特に以下のような即時介入を求めた：

イスラエル入植者に対するパレスチナ人の保護を確保するため、特に C 地区において、強制移住させられた、あるいは現在その切迫した脅威にさらされているパレスチナ人コミュニティーや、彼らの土地で世話をしている人々に対する国際的な保護活動を強化することを含め、効果的な措置を直ちに講じること；

オリーブ収穫はパレスチナ人コミュニティにとって重要な収入源であり、主食であるため、イスラエルに対し、パレスチナ人がオリーブ収穫を行えるよう移動制限を解除するよう要求すること；

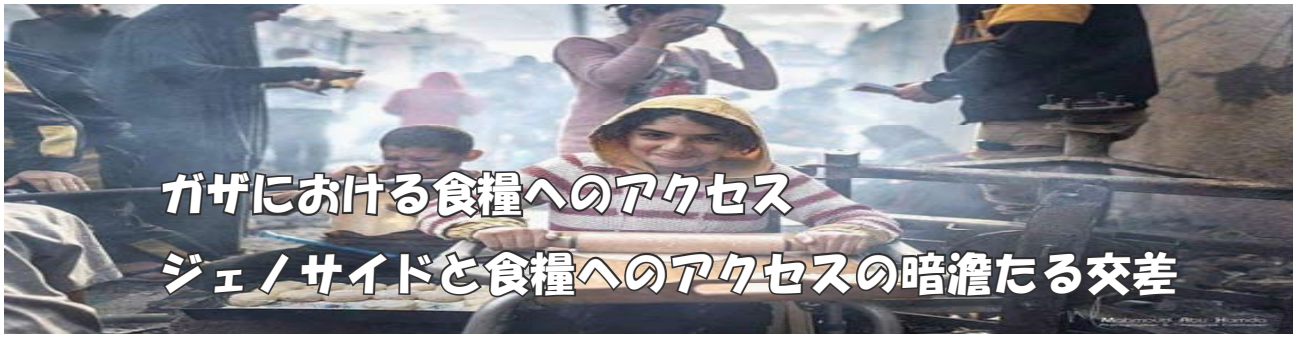
イスラエルの植民地的入植事業を、パレスチナ人全体に対する制度化された人種的支配と抑圧の体制を維持するために考案された政策の 1 つであると認識し、シオニスト入植者植民地主義に内在するパレスチナ人の土地収奪と支配、パレスチナ人の個人的・集団的権利の弱体化の根本原因に対処すること；

イスラエルの植民地的入植事業に対する非難の声明を、武器禁輸、経済制裁、対イスラエル対抗措置、および二重国籍者を含むイスラエル入植者やイスラエル入植者組織に対する標的を絞った個人制裁と一致させること；

保護されているパレスチナ人に対する継続的な暴力を煽り、煽動する製品として、自国の管轄区域内への入植地製品およびサービスの輸入を禁止する国内法を実施するための措置を講じること；

イスラエルに対し、完全かつ公平な調査を実施し、イスラエルの加害者（イスラエル入植者とイスラエル占領軍の両方）の責任を追及することを含め、パレスチナ人の殺害や負傷、パレスチナ人の財産やインフラへの損害、パレスチナ人の強制移動につながった入植者の暴力に対する制度化された不処罰を終わらせるよう要求すること。

イスラエルの司法制度をイスラエルのアパルトヘイト体制の一部であると認識し、正義と説明責任を確保するために、ICC 検事局と国連調査委員会に全面的に協力すること。




農業労働委員会連合（UAWC）
日付：2023 年 10 月 21 日

ガザ地区は狭い海岸沿いの飛び地であり、約 210 万人が暮らしている。
パレスチナ難民 170 万人を含む約 210 万人が住む狭い沿岸の飛び地であるガザ地区は、社会経済的な衰退の一貫した軌跡を 乗り越えてきた。
この 10 年以上、社会経済が衰退の一途をたどっている。この衰退は単なる統計ではなく、ほとんどの住民にとって生きている現実である、

この衰退の起源は、さまざまな構造的・外的要因に求めることができる。
2007 年のイスラエルによる封鎖は、特に衰弱させる措置として際立っている。
封鎖は、陸・海・空の包括的な包囲であり、人の移動が制限されただけでなく 、ガザ地区全体の出入りを制限してきた。
このことは、ガザの経済、医療、インフラ、そして「極め て重要な食糧安全保障」に連鎖的な影響を及ぼしている。
重要なのは食糧安全保障である。

2023 年 10 月の恐ろしい事態が起こる前から、その兆候は明らかだった。多くのガザ住民が食糧不足に苦しんでおり、国際援助に大きく依存している。
私は暗い絵を描いた。次の食事がわからない家族、発育不良の子どもたち、栄養失調の瀬戸際に立たされた地域社会などである。

栄養失調

さらに、ガザの社会経済構造はすでにボロボロだった。人口の 81.5%が貧困線下で苦しんでおり、基本的な生活必需品や医療、「教育」へのアクセスは限られている。
失業率は 46.6%という法外な数字で、雇用可能な人口の半数近くが安定した収入を得ていないため援助や救済への依存を悪化させた。
これらの要因が重なり合うことで、ガザの人々が直面する困難は計り知れない。
最近の危機以前から、ガザの人々は途方もない困難に直面していた。

イスラエルが 10 月 7 日に開始した執拗な攻撃は、ガザ地区の悲惨な章の始まりだった。
ガザ地区の悲惨な幕開けとなった。民家を標的にした集中的な空爆によって、ガザ地区の荒廃は急速かつ甚大なものとなった、
その破壊は迅速かつ甚大であった。わずか数日間で、数千人が犠牲となり、死者数は約 4,137 人に上った。
死者は約 4,137 人、負傷者は 13,162 人を超え、その 60%以上が子どもと女性だった。
このような侵略の影響は、単に肉体的なものだけでなく、心理的なものであり、すでに心に傷を負った人々に永続的な傷跡を残した。
この殺戮と絶望の背景の中で、10 月 10 日はイスラエルの決定的な分岐点となった。
占領軍は、空からの猛攻撃に満足することなく、窮地に陥ったガザをさらに締め付けることを決定した。その運命の日、食糧や燃料を含むガザへの必要不可欠な物資の輸送はすべて停止された。長期にわたる社会経済的苦境に耐えてきた住民にとって、この封鎖は 、集団の首を締め付ける比喩的な枷となった。

イスラエルが差し迫った地上侵攻を理由に、ガザ市とその近郊に集中していた 100 万人以上のパレスチナ人の避難を命じたとき、状況はさらに悪化した。恐怖と切迫した雰囲気の中で行われたこの避難は、「大混乱」を引き起こした。家族は突然、地元の食料供給源や共同体の支援構造から根こそぎ奪われた、
そして多くの場合、何世代にもわたって耕作してきた土地からも根こそぎ奪われた。ガザ地区全域で、水や電気といった必要不可欠なライフラインが停止した。ライフラインが途絶えたことで、人間の悲劇はさらに深まった。
苦しんでいる人々を、前例のない人道的大惨事の瀬戸際に追いやった。
ガザ地区は、その規模こそ小さいものの、歴史的には、住民の食糧生産の道標となってきた。
ガザ地区。耕作可能な土地は 75.2km に及び、年間収穫量 7 万トンの豊かな果実の産地であった。
年間収穫量は柑橘類を含めると 7 万トンに達する。さらに、この土地では常に 30 万トンを超える様々な野菜を生産している。特筆すべきは、国境地帯がこの恵みに大きく貢献していることだ、 この地域の農産物のかなりの部分を生産している。

ガザでは農業は単なる職業ではなく、何世代にもわたって受け継がれてきた遺産なのだ。農業には 約 44,000 人が働いており、ガザの総労働力の 11%を占めている。
多くの人々にとって、農業は 単なる生計手段ではない。
相続であり、生き方なのだ。

しかし、最近の壊滅的な打撃の波 イスラエルによる殲滅戦争がも

たらした干ばつは 、この農業の風景を大きく変えてしまった。
先祖伝来の農地、特に東部と北部の重要な地帯に 伝統的にガザの主要な食料拠点として崇められてきた。その結果、かつては生命に満ち溢れていた田畑は、今では見捨てられ、作物は枯れ果てている。

この混乱の余波は、ガザ全域に波及している。日々の糧に欠かせない数多くのパン屋が、深刻な食糧不足を引き起こしている。住民たちは、基本的な栄養を求めて、途方もない列に並んでいる。

飲料水は希少なものとなった。インフラの多くが破壊され、利用可能な水源は汚染されている。

ガザのパレスチナ人は、深刻化する人道危機という厳しい現実に直面している。

62 歳の農民、リヤド･アル＝ナスルは、状況の深刻さを強調する。彼と彼の家族は 70 ドノムの土地で野菜を栽培していました。しかし、イスラエルの作戦が始まって以来、彼らは土地へのアクセスを失った。
ガザ住民の主要な食糧源として機能していた数千ドノムも、同様の被害を被っている。養鶏場は深刻な影響を受け、何千羽もの鳥が死んでいる。直接爆撃を受けたり、世話が行き届かなかったりしたためだ。多くの人々が依存している漁業部門もまた、麻痺している。漁師は海に入ることを禁じられている、

農業エンジニアで開発スペシャリストのサード・ジアダは、彼の家族と彼が現在耐えている状況をこう証言する。

現在も続くイスラエルの侵略により、ガザからラファへの避難を余儀なくされている。
、サードと彼の家族は飲料水を手に入れることができなかった。わずかな水を節約するために、トイレに行くなどの行動を制限している。彼らの食事は、栄養を満たすのにやっと足りるような古い缶詰に制限されている。

以上のような状況を踏まえ、パレスチナ人と国際社会運動・団体は、次のような重要な要求を提唱している。
1. 食糧への権利に関する国連特別報告者の関与： 食糧への権利に関する国連特別報告者に直接訴え、ガザの深刻な状況に介入し、評価すること。

ガザの深刻な状況を評価すること。これには、食糧に対する権利の侵害を詳述した包括的な報告書を発表し、ガザにおける深刻な状況を評価することが含まれる。

食糧への権利の侵害を詳述した包括的な報告書を発表し、「国際的な利害関係者と協調」して、これらの侵害に対処するための緊急措置を勧告することである。
国際的な利害関係者との調整 0
2. 封鎖と攻撃の即時停止： すべての軍事作戦の即時停止と 物資と人の自由な移動を可能にする封鎖の解除。
3. 人道援助： ガザ住民の食糧需要に応えるため、国際援助を迅速に提供すること。
緊急食糧、清潔な水、医療支援を含む。
4、市民インフラの保護 農園、パン屋、工場など、農園、パン屋、水源地などの重要な民間インフラが、いかなる軍事行動においても標的にされないことを保証すること、
5. エンパワーメントと資源に対する主権： ガザの農業と漁業部門を再建し、強化するイニシアティブ。
長期的な食糧安全保障を確保するだけでなく、パレスチナ人が自国の天然資源と生産手段に対する主権を確保できるようにする。
6 説明責任と正義の追求 イスラエルの占領に対して、その犯罪の責任を追及し ガザでの絶滅行為と生活必需品の破壊に責任を負う者たちに、正義の裁きを受けさせること。

ガザにおける生活必需品の破壊行為の責任者が正義に直面することを保証すること。

{ 要約：ガザ地区で進行中の危機は、憂慮すべき規模に達しており、その影響は「ガザ地区の地理的範囲をはるかに超えて」広がっている。

ガザ地区で進行中の危機は、憂慮すべき規模に達している。このエスカレートする災厄の核心にあるのは、次のようなものである。
食糧を得る基本的人権である。

この権利は、ガザのパレスチナ人住民にとって、今危険な脅威にさらされている。

歴史的に、ガザは豊かな農業生産の中心地であった。
ガザは歴史的に豊かな農業生産の中心地であり、自国の住民を養うだけでなく、この地域の重要な食糧資源としても機能してきた。しかし、近年のイスラエルの 侵略と持続的な封鎖によって、かつて繁栄していたこの分野は機能不全に陥っている。必要不可欠な輸入が途絶え 、紛争によって現地の農地へのアクセスが不可能になったことで、ガザの人々は、食糧不足にあえいでいる。
ガザの人々の食糧資源は減少の一途をたどっている。

この事態の深刻さは、控えめに言うことはできません。十分な食料がなければ、住民は次のような事態に直面する。
栄養失調、病気に対する脆弱性の増大、特に子供と高齢者の死亡率の上昇に直面している。

特に子供と高齢者の死亡率が高まっている。たった一食の食事を確保しようとする家族の日々の苦闘は、両親を苦しめている。
子どもたちが飢えに苦しむ姿を目の当たりにし、心を痛める試練に直面している、
食糧不足の直接的な生理的影響だけでなく、心理的、社会的影響も大きい。慢性的な飢餓は絶望を生み、トラウマを強め、社会経済的不平等を深める。より広い視野で見れば、この危機はすでに脆弱な地域を不安定化させる恐れがある、

この危機は、すでに脆弱な地域を不安定化させる恐れがある。
この緊急事態の大きさを考えれば、国際社会には以下の責務がある。迅速かつ強力に介入する必要がある。多面的なアプローチが重要である。
平和を回復するための持続的な外交的介入、そしてガザの農業部門を再生させるための長期的戦略である。

不作為や行動の遅れは、すでに深刻な状況を悪化させるだけだ。日を追うごとに 、人道的惨事は不可逆的な転換点に近づいている。従って 世界的な大国、人道支援組織、そしてより広範な国際社会が、これ以上の事態を防ぐために団結することが不可欠である。
コミュニティが一丸となって、ガザでの生活のさらなる悪化を防ぎ、ガザの人々の食糧を守るために。

ウェブサイト：uawe-palong WestBank Main Gaza Main Offc、
E メール：afoauawe pao Otis, Ramallah, Gaza City.
Tes02201712, Tel 08-2879059
ファックス 02-2421706 ファックス 082853075
農業委員会連合

# パレスチナ日誌

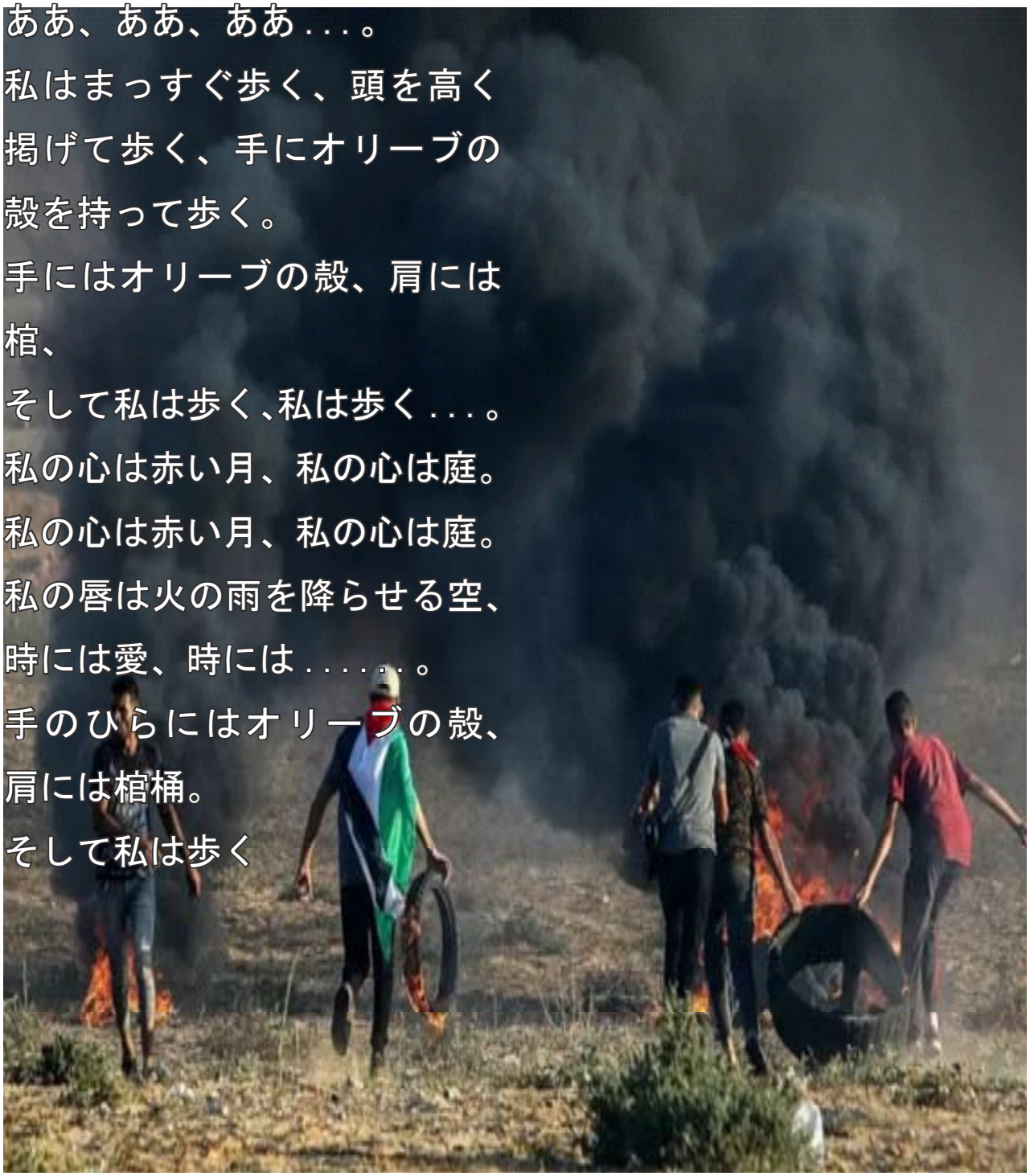
**6 月 18 日**
・ネタニヤフ政権に反対するデモが 24 週目に突入
・タイベの「取り壊しと規制」政策に反対するデモ
・アラーバの町で占領軍が子供を暴行し逮捕
・ベツレヘム西部のフサンで占領軍との対立が勃発
6 月 19 日
・イスラエル軍はイスラエル領内でヒズボラとの戦闘を準備中
・ヨルダン川西岸地区での負傷者、対立、逮捕者
・入植者がヤスフ村から羊 10 頭を盗む
・占領軍がシルワンの町の少年 2 人を逮捕
・占領軍がガザ国境で 2 人の若者を逮捕
・入植者 140 人がアル・アクサを襲撃
・サルフィット西の農道を閉鎖
・ガザ 2014 年の侵略で被害を受けた人々のために、補償を求める大規模デモを実施
・占領軍、カラワット・バニ・ハッサンでの作業と建設を中止するよう 5 通の通告を出す
・爆撃と襲撃－シルワンの町を襲撃する
・イスラエルガス田の収益はガザではなく自治政府に支払われる
・年ぶりにヘリコプターがヨルダン川西岸の都市を攻撃
・占領軍がヨルダン川西岸地区の市民 14 人を逮捕
・ジェニンにおける占領の犯罪を糾弾するナブルスのスタンドアラブ連盟事務総局はジェニンに対する広範な侵略を非難するアラブ連盟事務総局はジェニンに対する広範な侵略を非難する
・占領軍がマサファー・ヤッタの 5 軒の家屋の作業中止と取り壊しを命令
・占領軍が承認 . . . ジェニンで抵抗軍の銃弾がアパッチ・ヘリを直撃
**6 月 20 日**
・『スモトリッチ』、ヨルダン川西岸北部での大規模軍事作戦の開始を要求
・イスラエル当局、アル・アラキブを 218 回目の取り壊し
・ジェニンと連帯するガザのデモ
・負傷者 2 名占領軍がジェニンの西で車両を銃撃
・大規模作戦を除き . . . 占領軍はヨルダン川西岸の警戒態勢を強化
・ベツレヘム西部のフサンの町で殉教者が占領軍に射殺された。
・国連事務総長イスラエルは入植地建設の決定を取り消せ
・ヨルダン川西岸地区での逮捕－占領軍はヨルダン川西岸地区から武器を調達していると主張
・占領軍のブルドーザーがシルワンのアバシヤ地区を襲撃
**6 月 21 日**
・″ギャラント ″が兵士に先制作戦を命じる
・エリコ西部で入植者が市民の車に投石
・入植者の攻撃で市民 34 人が負傷、車両 140 台が破壊された
・ヘブロン南部で入植者が市民を殴打
・エルサレムで解体作業が続く
・占領自治体は、アル・トゥールの町の住宅ビルの 1 フロアを取り壊した。
・サルフィット東部で入植者が市民の車を襲撃
・占領軍はヘブロンで、斧の所持を口実に青年を逮捕。
・救援要請－入植者が Turmus Ayya の家屋を攻撃し、車両を燃やす
**6 月 22 日**
・入植者たちがヨルダン渓谷北部で新たな入植ユニットの建設を開始
・対立：入植者がフサン村の土地に放火
・入植者たちがブルカの町を再び攻撃
・カフル・マレックで対立中の若者が銃弾の破片で頭部を負傷した。
・占領軍、アラバの若者 2 人を拘束し、ジェニン南部のヤバドを襲撃
・占領軍の特殊部隊がエリコの若者を逮捕
・イスラエル、ヨルダン川西岸地区で 1000 ユニットの入植地建設を承認
・オレフへの入植者の襲撃で青年が負傷
・入植者たちはエリコの西、アル・マラジャット・ロードの真ん中に新しい前哨基地を設立した。
・ジェニンで車両がイスラエル軍機に狙われ 3 人殉職
・占領軍、ヨルダン川西岸地区への新大隊配備を決定
・占領軍がナブルスのアシールの実家を爆撃
・逮捕－デヘイシェ・キャンプの実弾で青年が負傷
・ルバンとシンジルの東の土地に新たな入植地を建設する。
・グテーレス大統領、入植者の攻撃を ″テロ行為 ″と表現
・ウム・トゥバ村の土地をブルドーザーで破壊する占領自治体
・ベツレヘムで入植者が市民の車を襲撃
**6 月 23 日**
・カタール、入植者の襲撃を非難し、これを阻止するための緊急の国際行動を求める
・外務省、占領軍の参加と関与による入植者犯罪の拡大を非難
・シルワンの町での対立
・アラブ連盟、入植者によるパレスチナ人村落への攻撃を非難
・占領軍がアスカル・キャンプを襲撃した際に撃たれた若者
・入植者がベイティン入口で市民の車を襲撃
・占領軍がベツレヘム東部の若者を逮捕
・デラスティヤとブルキンの町を襲撃し、ヤスフで車両を攻撃した。
・占領軍がヘブロンの市民 4 人を逮捕
・ジェニン市とヤバドとカフルダンの町の占領の嵐
・占領軍がシドンの町の元囚人を逮捕
・国連、ヨルダン川西岸地区での ″暴力 ″が制御不能になりつつあると警告
・占領軍によるベイト・ダジャン行進弾圧の結果、窒息による負傷者
**6 月 24 日**
・土地没収政策に反対する数百人のデモがタイベで行われる
・毎週のカフル・カドゥムのデモ行進が弾圧され、4 人が負傷した。
・ナブルス南部の入植地での銃撃事件
・ナブルス南部ベイタでの占領軍との衝突で 25 人が負傷
・殴打と逮捕－占領軍がシェイク・ジャラー地区のデモを弾圧
・ナブルス北西部での対立で子供が占領軍の銃弾により負傷した。
・ヘブロンのサイルの町で入植者が農地を焼く
・占領軍がヘブロンで子供を拘束
・殉教者－カランディヤ検問所での銃撃でイスラエル人が負傷
・アル・ムガイルで入植者が市民を襲撃、テント 6 張りを取り壊す
・ヘブロン南部マサファー・ヤッタで入植者が農作物を焼く
・ウンム・サファに対する入植者の攻撃で家屋や車両が焼かれる
・入植者たちがトゥバスに新たな入植拠点を設立
・占領軍、ヤバドとアラバの子供と少年 2 人を逮捕
・数十人の入植者がオリフ村を襲撃
**6 月 25 日**
・占領軍、アル・アクサ・モスク内部から 3 人の若者を逮捕
・ティビ占領軍兵士が入植者をトゥルムス・アヤに入れるようにしたのだ
・ベツレヘム西部で占領軍と対立し、窒息死した。
・ネタニヤフ政権に反対するデモが 25 週連続で更新された。
・占領軍はエリコの北側の 2 つの入り口に 2 つの軍事検問所を設置した。
・ラマッラ西部で入植者が市民の車を襲撃し、青年が負傷した。
・ヨルダン川西岸北部の入植地 Avnei Hefetz を狙った銃撃事件
・ナブルス近郊で占領軍に発砲
。占領自治体のクルーがシルワンの町を襲撃
・占領軍はガス弾をデイル･アル･バラ東部の抵抗拠点に向けて発射した。アメリカ、パレスチナ人に対する暴力行為の責任を入植者に求める
・占領軍、ヨルダン川西岸で 2 個大隊を増派
**6 月 26 日**
・占領軍は、入植者によるウム・サファ襲撃に関与したとして、兵士の 1 人を調査している。
・アメリカ、パレスチナ人に対する暴力行為の責任を入植者に求める
・アル・イサウィヤの町での対立
・ヨルダン川西岸での対立と逮捕
・イード・アル＝アドハー前夜－エルサレム人囚人の襲撃と金品没収
・実家を襲撃 － エルサレム人囚人アーメド・マナスラによるセッション
・107 人の入植者がアル・アクサ・モスクを襲撃
・ヒズボラ、レバノン南部でのイスラエル軍無人機撃墜を発表
・占領軍、ヨルダン川西岸での入植地 5,623 ユニットの新規建設を承認
**8 月 27 日**
・イスラエルラムラで爆発物製造工場を発見
・イスラエルはヨルダン川西岸北部での軍事活動の拡大を検討している。
・ヨルダン川西岸で逮捕者 － ナブルス占領軍襲撃で 2 人負傷
・ハーレツ占領軍とシン・ベットは入植者の暴力を制御できなくなった

・占領軍、アル・ラム北入口で対立中の若者 2 人を逮捕
・ジェニン州のいくつかの村が占領された。
**6 月 28 日**
・バブ・アル・ラーマ礼拝堂 . . . 礼拝者への侵入と攻撃
・マサファー・ヤッタで入植者が若者を殴打
・占領軍、ジェニン南部の軍事検問所で若者を逮捕
・占領軍はシュアファト検問所で、刺そうとしたという口実で子供を逮捕した。
・国連、5,500 戸の入植地建設計画の提出を非難
**6 月 30 日**
・占領軍がウリフの家を包囲し、市民を逮捕した。
・占領軍、ザータラ検問所で青年を逮捕
・占領軍によるビュリン村襲撃時の負傷者
・占領軍、ヨルダンから帰国中の青年を逮捕
・占領軍、ベイト・リマの青年を暴行後逮捕
・マサファー・ヤッタで入植者が農作物を焼く
・占領軍、サルフィット西部の土地から市民を追放
・ハレディ派が占領軍への兵役拒否者のための刑務所を襲撃
**7 月 1 日**
・毎週のカフルカドゥム行進の弾圧で 7 人が負傷
・占領軍、入植を糾弾する週刊イベント「デラスティア」を弾圧
・ナブルス南部のビュリン入口で少女を逮捕する占領軍
・ヘブロンのワディ・アル・フセイン地区で入植者が住民を襲撃
・ヘブロン東部の入植者襲撃で市民 2 人が負傷
・ヘブロンで市民が自動車事故で死亡
・イスラエルでは入植者が武装民兵を結成し、ヨルダン川西岸で虐殺を行うことが懸念されている
・サルフィット西部で入植者が農民を襲撃、市民を逮捕
・カフルアルディクで入植者が 2 人の市民を殴打、占領軍が 1 人を逮捕
・入植者、ラマッラ北東に入植前哨基地を設立
**7 月 2 日**
・26 週連続：ネタニヤフ政権に対するデモが再燃
・占領軍機がホムスを空爆
・占領軍がガリラヤでの入植地設立を公式に承認
・イスラエル、F-35 戦闘機の第 3 飛行隊購入を承認
・Qarawat Bani Hassan で 35 本の木を根こそぎ折り、財産を破壊した。
7 月 3 日
・イスラエルヒズボラ、シェバア農場からレバノンにテントを移動
・サルフィット東部で、市民が入植者の投石により負傷し、車の窓ガラスが割られた。
・132 の作戦 . . . 安全保障界は懸念し、ヨルダン川西岸での軍事作戦を支持している
・ジェニンで市民が殺害される
・殉教者と負傷者 . . . 占領軍は空爆の支援を受け、ジェニンでの大規模作戦を開始
・ジェニンへの侵略に立ち向かうため、ラマッラ勢力が動員を呼びかけ
・占領軍がヨルダン川西岸地区の市民 4 人を逮捕
・外務省、ジェニンへの侵略を止めるための緊急国際介入を要請
・占領軍、この 1 ヶ月でガザから 8 人の市民を逮捕
・今年に入ってから、占領軍はジェニンの市民 291 人を逮捕した。
・ガザでの大規模なデモで、各派閥のリーダーたちはマアン紙に戦場の団結を保証した。
・ブルカの子供たちが住む家を襲撃する入植者たち
・ラピッド、ジェニンでの作戦についてヨルダン川西岸でのミサイルシステム建設を許さない
・″ジェニン大隊″：我々はイスラエルの車両を爆破し、兵士を待ち伏せた
・占領軍はジェニンで 3 人の青年を負傷させ、うち 2 人を逮捕した。
・アルビレ北部で占領軍と対立
・占領軍はジェニンキャンプのモスクを包囲し続けている
・ナブルス南部で治安警備隊員が占領軍の銃弾により負傷した。
・カランディヤ検問所付近で占領軍と対立
**7 月 4 日**
・テルアビブ．パレスチナ人の子供がイスラエル人を刺した容疑で逮捕された。
・占領軍はジェニンの武器倉庫を押収・破壊したと主張
・ワシントンイスラエルの自衛権を支持し、ジェニンの市民の保護を求める
・殉教者 9 人、負傷者 100 人 . . . 軍部はジェニンへの侵略を終わらせようとしない
・エルサレムの町や近隣での対立
・ジェニンとそのキャンプへの軍事的増援
・アルビレでの対立
・占領軍はジェニンキャンプを襲撃し続けており、状況は今後数時間で評価されるだろう
・殉教者の遺体が発見され、ジェニンの死者数は 10 人に増加
・陸軍報道官キャンプに残っている標的は 10 人で、120 人の若者を逮捕した
・アブ・ディスでの衝突で兵士 2 人が負傷
・(Hashd) は国際社会に対し、ジェニンキャンプに対する侵略を止めるために緊急に介入するよう要請する。
・ジェニンとそのキャンプに連帯して . . . ストライキがヘブロン県を席巻
・エルサレム市内に広がるストライキ
・占領軍はイード・アル＝アドハー期間中に 64 人の市民を逮捕した。
・ガザ地区中央のジェニンキャンプを支援する集会を組織する派閥
・路上閉鎖－エルサレムで対立が勃発
・3 日目、アル・アクサでの修復・再建作業が阻止され、3 人の従業員が逮捕された。
・ハマステルアビブの作戦は占領軍の犯罪に対する最初の対応だ
・ベツレヘムのジェニン収容所における占領軍の犯罪を糾弾するスタンド
・ジェニンでの占領弾による重傷
・ジェニン県経済のインフラを標的とした攻撃
・エリコ北部で入植者が市民の車を襲撃
・アルビレ北部で対立、若者 2 人が実弾で負傷、もう 1 人が逮捕される
**7 月 5 日**
・占領軍、エルサレムの少年を逮捕
・ジェニンで殉教者 － 侵略の犠牲者は 11 人に増加
・ベツレヘム南部のアル＝カダーで占領軍と対立が勃発
・カフル・ダンと ″殉教者の三角地帯 ″ での対立で負傷者 5 人
・アルビレ北部で対立、市民が占領軍の銃弾で負傷
・ガザ地区東部国境付近のデモで、1 人が銃弾で、もう 1 人がガスで負傷した。
・ジェニンの若者の殉教により、侵略による殉教者は 5 人の子供を含む 12 人となった。
・デモの最中にジハードは占領軍に対し、火の輪をすべての入植地に広げないよう警告する。
。ジェニン支援 － エルサレムでの対立
・アルアルブ・キャンプで若者 2 人が実弾で負傷
・日間の包囲の後－占領軍はジェニンとそのキャンプから撤退
・ガザから周辺入植地に向けてロケット弾を発射する。
・イスラエルによるガザ地区のレジスタンス襲撃
・ジェニンキャンプ占領の残党の捜索は続く
・イスラエル軍は調査中 . . . ジェニンで殺害された兵士は同僚からの銃撃で負傷した
・入植者がアル・アクサを襲撃 . . . 占領自治体がシルワンを襲撃
・アル・クッズ旅団占領を打ち破り、勝利を収めた新たな叙事詩。
・ナブルス近郊で進駐軍の警察車両が銃撃される
・ジェニンキャンプの 80%の家屋が侵略の結果被害を受けた。
・ナブルスの南、ビュリンで入植者がオリーブの木数十本を焼く
**7 月 6 日**
・占領軍、アルビレ北部で対立中の女性を逮捕
・テルアビブで激しいデモ
・逮捕と対立－占領軍はジェニンでの作戦中に飛行機を発見したと主張
・レバノンからイスラエルへのロケット弾、イスラエル軍は大砲で応戦
・占領軍はジェニンに対する最近の攻撃で 4 人の子供を殺害した。
・2005 年の解体以来初めて、ファタハ中央政府は軍事部門の復活について公に語った。
**7 月 7 日**
・カルキリヤ近郊で銃撃事件が発生し、イスラエル人 1 人が死亡、1 人が負傷、犯人は殉教した。
・ジェニンだけじゃない . . . アラブ自然保護協会が 2 万本の果樹を提供、人々の不屈の精神を支える
・イスラエル特殊部隊がトゥルカルムの職場から青年を誘拐
・フワラ検問所付近で救急車を襲撃する入植者たち
・占領軍がサルフィットのオリーブの木 340 本を根こそぎ撤去
・サルフィット西部で入植者と対立し、窒息死した。
・占領軍、デイシェ・キャンプの若者を逮捕

# パレスチナの歌

## まっすぐ頭を高く上げて歩く

以前の採録ですが、パレスチナ人の気持ちを表現しています。YOUTUBE でＵＰＲＩＧＨＴと検索してください



# おいしいパレスチナ

## フォガイヤ（ガザ市のシチュー）

″ガザの内陸部でイード・ウル・フィトルの際に伝統的に大量に作られ、家族や隣人、友人と分け合う人気のシチュー。牛肉や羊肉の小さな塊、チャード、米、ひよこ豆で作られ、レモン汁とフライドガーリックをたっぷりかける。

2 時間 45 分

材料

6 人分

単位： US

450

赤身のスチュワーリングビーフ（1 ポンド）または脂肪を取り除いたラム肉（小さな塊に切ったもの）450 グラム（1 ポンド 1 / 2

みじん切りにした黄タマネギ 5

オールスパイスの実 4

カルダモンのさや 1

シナモンスティック 2

クローブ 1

ベイリーフ 2

マスティック 1

ナツメグ（お好みで、中毒性があるのでハラールではありません）小片 8

冷水カップ 1 / 2

洗った中粒米カップ 2

塩（小さじ 1

（ひよこ豆缶（または 8 ～ 12 時間または一晩浸した乾燥ひよこ豆 1/2 カップ）1

チャードの葉（太い茎を除く）（約 8-1/2 c.5

にんにく 1

オリーブオイル 大さじ 1 / 2

レモン汁（絞りたて）1 カップ

作り方

チャードはよく洗い、細かく刻んでおく。

肉と水を鍋に入れ、沸騰させる。

中火にする。

スパイスをガーゼか使い捨ての茶こしで結び、玉ねぎと一緒に入れる。蓋をして中弱火で 1 ～ 1 時間半～ 2 時間、または肉が柔らかくなるまで煮る。

米、塩小さじ 1 ～ 1/2、缶詰のひよこ豆（乾燥ひよこ豆を使う場合は、途中で肉に加える）を加え、米がやわらかくなるまで約 10 分煮る。

チャードを一掴みずつ加え、加えるたびにかき混ぜる。弱火にする。

その間に、乳鉢と乳棒でニンニクと残りの塩小さじ 1/2 を潰す。

ニンニクをオリーブオイルで軽く焦げ目がつくまで炒める。

シチューに加え、よく混ぜる。

食べる直前にレモン汁を加える。

器に注ぎ、薄くスライスしたレモンを飾り、フラットブレッドを添える。

### 守ろう！オリーブの木を　カンパのお願い

**オリーブ畑再生基金の目的**

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合（UAWC)に送ります。

郵便振替
記号番号：00960-2-303500番
名称：オリーブの会（オリーブノカイ）

他行等から振り込む場合
店名（店番）：〇九九店（099）
預金種目：当座
口座番号0303500

イスラエルの子供の恐ろしい歌
ガザ海岸の秋の夕暮れ
戦闘機の爆撃、破壊、破壊
国境を越えるイスラエル国防軍
鉤十字の持ち主を排除せよ
あと１年もすれば何も残らないだろう
我々は無事に帰国する
一年以内に彼らを抹殺する
そして畑を耕そう

人質の解放と停戦を求めるイスラエル人のテルアビブからエルサレムへのデモ

イスラエル内の戦争に反対する左翼活動家を弾圧する警官

## 今号の内容

ガザの大虐殺はつづく・・・・・・・・・・・・・1
i-イスラエルが10月7日に自国民を殺した証拠・・・・3
入植者の暴力の危険なエスカレートについての書簡・・・・・・・8
ガザにおける食糧へのアクセス・・・10
パレスチナ日誌・・・・・・・・・・・・・12
パレスチナの愛した歌・・・・・・・・・・・14
おいしいパレスチナー・・・・・・・・・・・15
トピック・・・・・・・・・・・・・・・・・16

１１月１９日東京新宿パレスチナに平和を緊急デモ

１１月１２日豊中市民カフェスタに出店

１１月４日福岡でのパレスチナ連帯行動